

<<日本慢性期医療協会>>  
**第8回経営対策講座 ～地上の輝く星を知る～**  
**プログラム** (予定)

1日目 <2025年8月30日(土)> (開会 13:50)

	内 容
講演1 14:00 ～ 14:50	<b>建物の一体化から運営の一体化へ ～久英会グループが実現した医療・介護の融合戦略～</b> <b>講師：中尾一久（高良台リハビリテーション病院 理事長）</b>  2022年、高良台リハビリテーション病院を中心に、老健や特養、サービス付き高齢者住宅などの施設を建て替え、「医療と介護の物理的一体化」を実現した久英会グループ。建て替え後は地域包括ケアが加速し、入院患者数・施設稼働率も向上しています。次の挑戦は、職員配置や情報連携を統合する「運営の一体化」。ICT活用と人材育成を軸に、多職種連携と業務効率化を進め、さらに地域の中核としての役割を拡充します。理事長自らが明かす、施設投資を経営成果に直結させる実践的な戦略とは——？ 地域医療と介護経営の未来を示す講演です。
講演2 15:00 ～ 15:50	<b>3つの異なる病院の組織連携が生み出す、地域完結型医療のモデルケース ～交雄会新さっぽろ病院の経営戦略を解剖する～</b> <b>講師：三井慎也（交雄会新さっぽろ病院 理事長）</b>  交雄会新さっぽろ病院は、新さっぽろ駅と2つの専門病院を“アクティブリング”で結び、物理的・機能的な連携を高次元で実現。健診・外来・亜急性期・回復期・慢性期・在宅を一体化し、「断らない医療」と「地域包括ケア」の両立を図る稀有な都市型モデルです。本講座では、地域の医療需要をどう可視化し、どのように連携インフラを構築し、人的・財務的資源を最適化したのか——そのプロセスを経営理論と実践事例の両面から紐解きます。地域に根ざし、かつ持続可能な医療提供体制を志す医療経営者にとって、極めて示唆に富む講演です。
講演3 16:00 ～ 16:50	<b>人口減少時代の病院経営 ～新棟建設で業績を伸ばした北条病院の地域密着戦略とは？～</b> <b>講師：高石義浩（北条病院 理事長）</b>  人口減少・高齢化の課題に直面する愛媛県松山市北条地区。2021年、北条病院は地域包括ケア機能を重視した新病棟を建設し、病床の75%を地域包括ケア病床へと再編。在宅療養支援病院として訪問診療やリハビリを強化し、地域ニーズに徹底的に応えました。その結果、安定した入院稼働率を維持しつつ、経営的持続可能性も向上。地域に必要とされる「最後の砦」として存在感を高めています。本講座では、理事長自らが語る人口減少時代を勝ち抜く中小病院の実践的戦略を紹介。地域で選ばれ続ける病院づくりのヒントを提供します。
講演4 17:00 ～ 17:50	<b>病院経営は、未来の地域をデザインする仕事である。介護から医療へ500床への挑戦、その先へ。</b> <b>講師：樋口昌克（北大阪ほうせんか病院/ほうせんか病院 副理事長）</b>  介護事業からスタートし、わずか10年で2病院500床体制を築いた豊泉家グループは慢性期・緩和ケアを担う「ほうせんか病院」と、急性期・回復期を受け継ぐ「北大阪ほうせんか病院」を有します。豊泉家グループの戦略的な病院経営は、単なるベッドの積み上げではなく、「医療と福祉の融合モデル」という未来構想の実践です。今回の講演では、病院新築移転、事業譲渡の意思決定、そして改修中の北大阪ほうせんか病院が目指す次世代医療の完成図を語っていただきます。地域包括ケアにおける医療機関の進化形とは——。構想、決断、実行。自院の経営に、明日の地図が描かれることでしょう。
18:00～	<b>懇親会</b>

内 容	
講演 5 9:00 ~ 9:50	<b>小規模病院が地域医療の主役になる ~池端病院に学ぶ地域密着型多機能拠点戦略~</b> <b>講師：池端幸彦 (池端病院 理事長)</b> 福井県越前市に位置する 30 床の池端病院は、地域包括ケア病床を軸に訪問診療・訪問看護・訪問リハ・通所リハ等の在宅サービスを統合。「小さな病院の大きな役割」を実現し、入院から在宅までシームレスな医療・介護サービスを提供しています。地ケア病床の平均在院日数 23.9 日、在宅復帰率 88.1%という高い成果を上げつつ、本年 5 月には病院隣接の介護付有料老人ホーム「あいしくら」を開設し更に地域ケアの範囲を拡大中。小規模ゆえの強みを生かし、「住み慣れた地域で最期まで」を実現する小規模複合体経営。その具体的戦略と成功要因を理事長自らが明快に語ります。
講演 6 10:00 ~ 10:50	<b>少子高齢化・受療率低下・社会保障費抑制 ~すべての逆風を、組織進化の起点に変える 洛和会グループの次世代戦略~</b> <b>講師：矢野裕典 (洛和会ヘルスケアシステム 理事長)</b> 少子高齢化、外来受療率の低下、社会保障費の抑制など、医療機関を取り巻く環境はますます厳しさを増しています。3 府県 195 施設を展開する洛和会ヘルスケアシステムでは、こうした三重苦を逆風とせず、組織進化の契機と捉えてきました。地域医療連携推進法人の創設や、DX・AI の活用による業務効率化、医療的ケア児を受け入れる保育事業の展開、そして職員定住支援制度の導入など、多岐にわたる取り組みを進めています。これらはすべて、医療が「病院の外」へと広がる時代に、地域から求められ続ける存在であるための布石です。理念を軸に据えながら、民間ならではのスピード感で制度の縁を広げる矢野理事長の構想力は、地域完結型ケアの時代を見据える医療経営者にとって、大きな示唆を与えるものです。いま問われているのは、「病床」ではなく「構想」である。地域完結型ケアの実現に挑むすべての医療経営者に、ぜひ聴いていただきたい内容です。
講演 7 11:00 ~ 11:50	<b>病床を減らして、経営を伸ばす ~いま、慢性期病院が学ぶべきリハ特化型病院の戦略と実践~</b> <b>講師：室谷ゆかり (アルペンリハビリテーション病院 理事長)</b> アルペンリハビリテーション病院は、病床数をあえて“減らす”ことで病床稼働率を大幅に改善し、在宅復帰率 80%・医業収益の安定化・人員再配置による生産性向上を実現。休床ではなく、“戦略的ダウンサイジング”で地域医療構想と経営効率の両立を果たしたモデル病院です。本講座では、理事長自らがその決断の背景から改革プロセス、成果指標、組織の巻き込み方までを詳細に解説。高齢化が進む今、慢性期病院が選ばれ続けるために必要な視点とヒントが詰まった講演です。「病床をどう使い切るか」で悩むすべての医療経営者に、聴いてほしい講演です。
11:50 ~ 12:40	昼食休憩
講演 8 12:40 ~ 13:30	<b>「慢性期病院」から「慢性期治療病院」へ ~筑紫南ヶ丘病院が描く高齢者救急と地域医療の未来~</b> <b>講師：前田俊輔 (筑紫南ヶ丘病院 代表)</b> 福岡県大野城市の筑紫南ヶ丘病院は、慢性期治療センターから「ほっと」慢性期治療病院へ一気に転換。地域を含めたケア病棟を活用し、地域の介護施設や老人ホームと ICT で緊密に連携。24 時間 365 日の高齢者受け入れ体制を構築しました。受け入れ患者数は約 4 倍に急増し、地域の救急医療・介護の課題を手にとって取り組んでいます。慢性期治療病院への変革に踏み切った経営判断の背景とその成果を前田が代表して明快に解説。地域医療連携、ICT 活用、多分割協働による実践事例、高齢化時代の病院経営のヒントを提供します。
講演 9 13:40 ~ 14:30	<b>創業 20 年、売上 40 億円から 800 億円へ ~理念で伸ばす、桜十字グループ経営のリアル~</b> <b>講師：那須一欽 (桜十字グループ 執行役員 CMO)</b> 2005 年、熊本の療養型病院からスタートした桜十字病院。今や全国 21 病院・約 9,000 人の職員を擁し、グループ売上は 800 億円を超えます。急拡大の裏にあったのは、「患者・地域・職員、すべての幸せを追求する」という創業理念です。それを支える文化が、なぜ今も現場で機能しているのか？なぜ、拡大しても質が落ちないのか？理念と組織マネジメントの力を数字と事例で徹底解剖します。成功の構造と病院経営の未来が見えてきます。